

# 地域医療連携室だより vol.5

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

## 地域医療連携室の仕事

～セカンドオピニオン～

セカンドオピニオンは、患者または家族が病気に対する診断内容や治療方針などについて、現在診療を受けている主治医と現在の医療機関以外の専門医の両者から意見や判断などの情報を得て、今後の治療についての意思決定の参考とするものです。セカンドオピニオンの手続きも地域医療連携室の仕事の一つです。

◇セカンドオピニオンの流れ

患者または家族が  
主治医に申し出る

主治医が患者または家族と  
セカンドオピニオン受診を決定

地域医療連携室（MSW）が  
紹介先医療機関と受診調整

主治医が情報提供書等を作成、  
地域医療連携室が受け渡す

患者または家族が  
紹介先医療機関を受診

## 在宅ケア見本市開催

在宅ケア用品や介護用品、介護食を紹介する「在宅ケア見本市」を地域医療連携室主催で7月23日、24日に市民病院1階ホスピタルモールにおいて開催しました。シルバーカーや靴、介護用食器、大人用おむつ、関節痛薬、口腔ケア用品、宅配食の展示の他、やわらか食、とろみ剤を使ったおかゆなどの試食を行い、両日で367名の来訪者がありました。地域医療連携室として初めての試みでありましたが、退院から住み慣れた自宅へ帰り、ゆっくり療養する患者を支援していく上で十分手応えを感じることであった。地域医療連携室では、今後も在宅療養、介護生活を支援していきます。



## ケアマネジャー交流会開催

医療、介護サービスについて相互に理解を深める目的でケアマネジャー交流会を7月10日に開催しました。市内で活躍される41名のケアマネジャーさんが参加し、市民病院の看護師およびMSWとテーマ「患者支援におけるよりよい連携を図るにはどうしたらよいか」について意見交換が行われました。参加者からは、「お互いの実情が分かって良かった」「有意義であったので時間がもっとほしかった」などの感想がありました。第2回は11月13日（水）に開催されます。



## 一連携室からのお知らせ

8月3日（土）から土曜日の午前中においても紹介患者の診察、検査予約をお受けしております。受付時間は午前8時30分から午後12時30分までで、「紹介患者依頼票」「検査受診依頼票」をFAXでいただければ、すみやかに予約調整して予約票を送付させていただきます。どうぞご利用ください。

# 地域医療連携室だより vol.5

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

## 蒲郡市民病院 外科

平成 25 年 8 月現在、藤竹信一(H15 年赴任)、大本孝一(H22 年赴任)、村上弘城(H24 年赴任)、神野敏美(H25 年 4 月赴任)、小川貴美雄(H25 年 7 月赴任)の 5 名で診療にあたっています。また、乳腺疾患については、本年 7 月から、新たに名古屋大学第二外科乳腺内分泌外科より、林 裕倫講師が非常勤で診療にあたっています。8 月中にはそれまでの担当であった竹内元一医師からの引き継ぎが完了する予定です。

ここ数年、外科は人事異動がめまぐるしく、度重なる担当医の変更は、我々の診療の主たる対象疾患で長期間のフォローが必要ながん患者さん、ならびに地域の先生方に多大なご迷惑をおかけしているものと思います。中堅外科医の開業等による病院外科診療からの退場や外科志望者の減少などによる外科医不足が深刻な問題となっていますが、当科や当科の母教室である名古屋大学消化器外科・乳腺内分泌外科（第二外科）も例外ではありません。毎年のように離職者が出る当科に対して、今のところ大学からの派遣見送りという事態は無く、何とかこの数年間を乗り切ってきました。が、人事異動の節目節目における人員の確保はまさに綱渡りの状態で、今後も先の見えない状態が続くものと思います。

さて、当科の扱う領域は消化器癌や腹部内因性救急疾患などの消化器外科手術や乳癌手術が中心ですが、極端に細分化された都市部とは異なり、当地域唯一の二次医療機関として甲状腺等の内分泌疾患、自然気胸、下肢静脈瘤などにも対応しています。そのような中、高齢化率の高い当地域においては、やはりがん診療が大きなウエートを占めています。当院は DPC 移行後 2 年目ですが、集積されたデータを元に医療のレベルを他施設と比較することが可能となっています。DPC 導入 1 年目における、当科で扱う主要な癌種である胃癌、大腸癌、乳癌の全国との比較では、症例の平均年齢が約 2 歳高く、術後平均在院日数は約 3 日短いとの結果が出ております。癌の進行度による比較は困難ですが、当科に紹介される患者さんは、幽門狭窄をきたした胃癌、腸閉塞となった大腸癌、自潰しかかった乳癌など高度進行癌が多く、複数の合併疾患を有する高齢者のより困難な病変に対して良好な結果を残していると思います。いかがでしょうか？さらに、がん化学療法をはじめとする手術以外のがん診療においても外科は多くを担っております。当院の外来化学療法室では月平均延べ 150 名程の患者さんが治療を受けてみえますが、100 名前後が外科の患者さんです。

最後に、昨今進歩の著しい内視鏡下手術ですが、消化器癌にも適応を拡げておりますものの、上記のような進行癌の方には適応しておりません。一方、以前より急性虫垂炎や急性胆嚢炎などの腹部内因性救急疾患に対して積極的に内視鏡下手術に取り組んでまいりました。ただ最近になりまして、急性虫垂炎ほど、“急性胆嚢炎は早期（腹腔鏡下）手術を考慮”との認識がされていないのではないかと感じております。2005 年に世界初の胆道炎診療ガイドラインが日本から出版され、急性胆嚢炎に対して早期腹腔鏡下胆嚢摘出術が推奨されております。さらに、2007 年には同ガイドラインの国際版が英文誌に掲載されています。当科では、ガイドライン初版が出版される 4 年前、2001 年から、取り組んでおり、2006 年 3 月の“広報がまごおり”でも紹介しています。昨年度の病院年報でも改めてこの点について触れております。是非とも、“右上腹部痛→急性胆嚢炎？→外科に相談”という図式があることも念頭に置いていただきたいと思います。

文責：藤竹信一